

<p>新規就農者の素顔</p>  <p>氏名：木村 友彦 住所：たつの市新宮町 年齢：35歳</p>	<p>農業経営の状況（現在）</p> <p>施設：養豚場1棟（20,578㎡） 経営内容：養豚（一貫経営） 母豚20頭 肉豚300頭</p> <p>労働力：本人、弟、母</p> <p>出荷先： 直営店＋相対取引 80% 市場出荷 20%</p>  <p>直営店 Feinkost</p>
<p>就農から現在まで</p> <p>平成8年 県立佐用高校卒業 平成12年 日本獣医畜産大学食品工学科卒業 都内の漬物製造会社に入社 平成15年 Uターン就農 平成16年 姫路市内に豚肉専門精肉店「feinkost(ファインコスト)」開店 平成22年 兵庫県産ブランド「ひょうご雪姫ポーク」を確立し、兵庫認証食品に認定される。</p>	<p>就農で良かった点、苦労した点</p> <p>○良かった点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• やりがいをすごく感じる。</li> <li>• 自分でやっていることの面白さを本当に感じる事が出来る。</li> </ul> <p>○苦労した点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 特に就農当初は資金繰りが大変だった。</li> </ul>
<p>農業をめざした動機</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 幼少期から豚のいる環境で育った事。</li> <li>• 高校に入学を決めた時から、家業である養豚を継ぐことを考えていました。</li> <li>• 自分たちが作った豚肉を自分たちで販売したい、そしてブランドポークを作りたい、と思っていました。</li> </ul>	<p>後輩へ贈る言葉</p> <p>生き物を育てる大変さを身にしみて感じています。そして農業は非常に体力を使うため、自分自身の健康管理が大切になってきます。また、資金（特に自己資金）をしっかり持って、計画的に事業に取り組むことが大切です。</p>